

平成26年12月 広域交流対策特別委員会（事前）

平成26年11月27日（木）

[委員会の概要]

中山委員長

ただいまから、広域交流対策特別委員会を開会いたします。（10時34分）

直ちに議事に入ります。

本日の議題は当委員会に係る付議事件の調査についてであります。付議事件につきまして、お手元に御配付の議事次第のとおりであります。

理事者において説明又は報告すべき事項があれば、これを受けたいと思います。

【説明事項】

- 提出予定案件について（資料①）

【報告事項】

- 企業誘致の推進について（資料②）
- 「阿波とくしまアンテナショップ」第4号店の認定について（資料③）
- 徳島県観光振興基本計画（第2期）の策定について（資料④⑤）
- とくしま県産品振興戦略（第2期）の策定について（資料⑥⑦）
- 次期「とくしまブランド戦略」骨子（案）について（資料⑧）

吉田課題解決統括監

12月定例会に提出を予定いたしております広域交流対策関係の案件につきまして、御説明を申し上げます。私からは、歳入歳出予算の総括表及び政策創造部関係について御説明を申し上げます。引き続き各所管部長から御説明申し上げますので、よろしく願いいたします。

それでは、お手元にお配りしております広域交流対策特別委員会説明資料の1ページをお開きください。

平成26年度一般会計特別会計補正予算案でございます。

一般会計の補正総額は、総括表の一番下の計欄の左から二番目に記載のとおり、1,200万円の増額をお願いいたしております。補正後の予算総額は、その右の欄のとおり194億7,382万6,000円となっております。補正額の財源につきましては、財源内訳欄の括弧内に記載のとおりでございます。

2ページをお開きください。特別会計の補正総額は、総括表の一番下の計欄の左から二番目に記載のとおり1,000万円の増額をお願いいたしております。補正後の予算総額は、その右の欄のとおり34億9,933万2,000円となっております。補正額の財源につきましては、財源内訳欄の括弧内に記載のとおりでございます。

続きまして、政策創造部関係につきまして、御説明申し上げます。1ページを御覧ください。政策創造部の補正額といたしましては、総括表の一段目に記載のとおり700万円の増額をお願いいたしております。補正後の予算総額は1億54万8,000円となっております。

す。

3ページをお開きください。課別の主要事項につきまして、御説明申し上げます。

総合政策課でございます。（目）企画総務費の摘要欄①，企画調整費のア，新規事業，関西圏域誘客促進事業でございます。平成27年6月8日に大鳴門橋開通30周年を迎えるに当たり，本県への観光誘客を促進するため，関西圏で多くの集客が見込まれるイベントに出展する経費として50万円の増額をお願いしております。補正後の総合政策課予算総額といたしましては8,104万8,000千円となっております。

続きまして，広域行政課でございます。（目）計画調査費の摘要欄①，広域交流連携推進費のア，新規事業，大鳴門橋開通30周年スタートアップ事業でございます。当事業も来年6月の大鳴門橋開通30周年に先駆けて，徳島県と兵庫県の交流促進や本県への観光誘客につなげるため，オープニングイベントを開催するなど，30周年記念事業のスタートアップ事業として650万円の増額をお願いしております。補正後の広域行政課予算総額といたしましては1,950万円となっております。

政策創造部からの提出予定案件の説明は以上でございます。なお，政策創造部関係の報告事項はございません。よろしく御審議賜りますようお願い申し上げます。

仁木商工労働部副部長

続きまして，商工労働部関係の案件につきまして，御説明申し上げます。お手元の委員会説明資料の1ページを御覧ください。

一般会計・特別会計予算についてでございます。商工労働部の平成26年度一般会計につきましては，総括表の二段目に記載のとおり400万円の増額をお願いしており，補正後の予算額は，合計で17億2,694万4,000円となっております。補正額の財源内訳につきましては，括弧内に記載のとおりでございます。

2ページをお開きください。特別会計でございます。総括表の一段目に記載のとおり，中小企業・雇用対策事業特別会計におきまして1,000万円の増額をお願いしており，補正後の予算額は，合計で11億9,343万2,000円となっております。補正額の財源内訳につきましては，括弧内に記載のとおりでございます。

4ページをお開きください。商工労働部の主要事項についてでございます。まず，一般会計では，観光政策課でございますが，観光費の摘要欄の①，観光交流推進費のア，「おどる宝島！パスポート」淡路連携事業につきまして，大鳴門橋開通30周年や淡路花博の開催を絶好の好機として，兵庫県と連携し，おもてなし施設の淡路島内での展開による「おどる宝島！パスポート」の一層の拡充を行い，関西方面をターゲットとした観光誘客を促進する経費として400万円を計上しております。

5ページを御覧ください。次に，特別会計では，新産業戦略課でございますが，中小企業・雇用対策事業特別会計の摘要欄の①，中小企業・雇用対策推進費のア，「LEDバレイ徳島」発信力強化事業として，青色LEDに係るノーベル物理学賞の受賞という好機を生かし，首都圏におけるフォーラムの開催等により，国内外に向けたLEDバレイ徳島の発信力を更に強化するための経費として1,000万円の増額をお願いしております。

続きまして，この際，四点御報告させていただきます。

まず，第一点目は，企業誘致の推進についてであります。

お手元の資料1を御覧ください。サテライトオフィス及び関連企業については、県、地元市町村、NPO法人等が連携して、誘致に取り組んでおります。この度、東京都に本社を置き、家事・清掃代行サービスを行う株式会社ベアーズが、三好市においてサテライトオフィスを開設いたしましたので、ふるさとクリエイティブ・SOHO事業者誘致事業補助金の奨励指定を行いました。今後とも、市町村等と連携した企業誘致プロモーション活動により、積極的な誘致活動を展開し、より一層のICT企業の集積による地域振興・活性化と、雇用の確保にしっかりと取り組んでまいります。

二点目は、阿波とくしまアンテナショップ第4号店の認定についてであります。

資料2を御覧ください。この度、アニメ制作会社ユーフォーテーブル有限会社が、北九州市小倉において営業している「マチ★アソビC A F E」を全国初のアニメとのコラボレーションによる情報発信型アンテナショップとして、今月29日付けで阿波とくしまアンテナショップ第4号店に認定することといたしました。今後、パンフレットやポスターによる観光・物産PRを行い、若い世代を対象とした観光誘客を展開するとともに、阿波尾鶏をはじめとする本県食材をメインとした特別メニューの提供を行うなど、当店舗の持つ強力な情報発信力を生かして、県産品をはじめ本県の魅力を積極的に発信してまいります。

第三点目は、徳島県観光振興基本計画（第2期）の策定についてであります。

お手元に、概要版を資料3として、また、全体版を資料4としてお配りさせていただいております。このうち、概要版に沿って御説明させていただきます。先の9月定例会の当委員会におきまして、計画案の骨子の御説明を行い、その後、観光審議会での御審議を踏まえまして、この度、素案を取りまとめたところでございます。その概要といたしましては、平成27年度から30年度までの4年間を計画期間と定め、新計画のポイントとして、「7つの基本方針」をベースラインに、観光目的客の取り込み、ビジネス目的客の取り込み、「訪日外国人2000万人時代」に向けた取組の三つの核となる重点施策を強力に展開してまいります。

また、延べ宿泊者数、外国人延べ宿泊者数、コンベンション参加者数につきましては、明確な数値目標を掲げ、達成に向け取組を進めてまいりたいと考えております。

今後、パブリックコメントで県民の皆様の声を頂きますとともに、県議会での御論議や観光審議会での御審議を経まして、本年度内の計画策定を目指してまいります。

第四点目は、とくしま県産品振興戦略（第2期）の策定についてでございます。

お手元に、概要版を資料5として、全体版を資料6としてお配りさせていただいております。このうち、概要版に沿って御説明いたします。現行戦略策定後、4年を経過し、これまでの成果や社会情勢の変化を踏まえまして更なる県産品の振興を目指します新たな戦略の策定を行うものでございます。新たな戦略におきましては、まず、取組期間を平成27年度から30年度までの4か年とし、「とくしまブランド」の統合あるいは海外販路開拓の強化など四点をポイントとして捉えることといたしております。

また、体制づくりから販路拡大・販売促進までの五つの基本戦略に基づき、関係機関が連携・協力して、県内外はもとより海外へも拡充する売れる県産品として、一貫した販売戦略を展開してまいりたいと考えております。あわせて、基本戦略ごとに明確な数値目標を掲げ、重点的かつ効果的な取組を図ってまいります。

今後、県議会での御論議やパブリックコメントによる県民の皆様の声を踏まえ、本年度

内の戦略策定を目指してまいります。

説明及び報告につきましては以上でございます。御審議のほど、よろしくお願い申し上げます。

梅崎農林水産部副部長

農林水産部関係の提出予定案件につきまして、御説明申し上げます。

説明資料の1ページをお開きください。農林水産部といたしましては、今回、100万円の増額補正をお願いしております。補正後の予算総額は3億3,658万3,000円となっております。また、補正額の財源内訳につきましては、括弧内に記載のとおりでございます。

続いて、主要事項でございますが、6ページをお開きください。もうかるブランド推進課関係でございますが、上から二段目の（目）園芸振興費につきましては、摘要欄①、新鮮とくしまブランド戦略対策費のア、新規事業、「食のおもてなし・徳島」PR事業におきまして100万円の増額をお願いするものでございます。この事業は、来年、大鳴門橋開通30周年を迎えるに当たりまして、観光誘客の促進やブランド製品の更なる販路拡大を図るため、イベントといたしまして、「とくしまマラソン2015」の前日、受付会場におきまして「新鮮なっ！とくしま」号を展開し、食のおもてなしをテーマとしたPRなどを実施する事業でございます。提出予定案件の説明は、以上でございます。

この際、一点御報告させていただきます。次期「とくしまブランド戦略」の骨子（案）についてでございます。お手元にお配りしております資料7を御覧ください。

現行の「ひろがる・とくしまブランド戦略」は、本年度、最終年度を迎え、次期ブランド戦略を構築したいと考えているところでございます。グローバル化の進展や競合ブランドの台頭をはじめ、大きく変化する時代潮流に対し、「とくしまブランド」を発展させていくために、「オール徳島で新たな時代に挑戦」を基本コンセプトに、平成27年度から平成30年度までの4年間を計画期間とし、次期ブランド戦略を構築してまいります。

この戦略の構成につきましては四つの挑戦を掲げ、初めに、トップブランドへの挑戦として、代表品目について個別戦略による施策の重点化や「とくしま特選ブランド」の充実。二つ目は、東京一極集中への挑戦として、vs東京の共通コンセプトに基づきまして、大都市圏でのイベントやプロモーション活動などの展開。次に、産地構造改革への挑戦といたしまして、産地間連携などによります野菜団地づくりや、地域ブランドの創出。四つ目に、サポート体制構築への挑戦として、地域ビジネスの育成、営業活動を担うサポート体制の構築を図ってまいりたいと考えております。

また、具体的な連携施策といたしまして、六次産業化をはじめ、輸出の促進、新技術や商品開発などを強化してまいります。

今後のスケジュールといたしましては、平成27年2月議会で素案を説明いたしまして、6月議会には正案を報告したいと考えております。

報告事項は以上でございます。御審議のほど、よろしくお願いいたします。

中山委員長

以上で説明等は終わりました。

これより質疑に入りますが、事前委員会における質疑は、提出予定議案に関連する質疑

及び緊急を要する案件に限定するとの申合せがなされておりますので、御協力をよろしくお願いいたします。

それでは質疑をどうぞ。

#### 川端副委員長

今、淡路島が大変盛り上がっております。徳島県も、今年度、周年事業がたくさんありましたね。四国霊場八十八箇所開創1200年、そして瀬戸内海国立公園の指定80年でしたかね、そしてまた全国共通料金、いわゆる本四架橋の料金制度が四国に有利になった。いろんな周年事業が徳島はありましたが、その割には淡路島に比べて、鳴門市、徳島県への入込客は少なかったとっております。私がちょっと調べてみましたら、今年度4月から9月の一日の通行台数ですが、明石大橋は3万6,465台。三万六千台ですね。それに対して鳴門大橋は2万4,468台というように、淡路にはたくさんきてるんだけど、そこから先の徳島につながっていないという数字が明らかでありました。

どうして鳴門、徳島のほうに足を伸ばしてもらえないのか、この件について県はどのように認識されておられるか、お聞きしたいと思います。

#### 仁木観光政策課長

今御質問いただきました数字につきましては、今年の4月から9月、上半期、今年度の通行台数ということでお伺いしたと思います。

淡路には観光客が来るのに、そこからもう一つ橋を渡って徳島に来る観光客が少ないのではないかとございましてけれども、本四道路以外からの本県への入り込みというのももちろんあるわけですが、やはり共通料金制度ということになりまして、主に関西からのマイカー客が淡路を通過して徳島にきていただくと、そういったお客様をどんどん増やしていきたい。マイカー客のみならず、団体旅行のバスでありますとか、企画旅行商品で旅行会社のバスを仕立ててくる、そういったお客様をどんどん取り込んでいく必要がございまして。

なぜ大鳴門橋を渡って徳島まで来る観光客が若干少ないのかということにつきましては、特に今年につきましては、4月からの消費税の増税でございまして、ガソリン代の高騰もございました。また、この7月からは貸切バスの料金制度が改正されまして、実質値上げといったことがございまして。そうしたことによりまして、企画旅行商品、旅行会社の商品についても若干値上げをせざるを得なかったでございまして、団体旅行もバス代が上がっていると、そういったこともあったと思っております。そうしたことによりまして、旅行者全体の傾向といたしまして、どちらかというところと遠距離旅行から近距離の旅行、日数も短い旅行へとシフトしてきたといったことが挙げられると思っております。

また、今年の8月につきましては、台風11号、12号の影響もございまして、大鳴門橋が長時間通行止めになったということもあったと思っております。

こうしたことが複合的に影響したのではないかと考えておりますけれども、これまでの取組の結果、平成25年の宿泊者数は226万人ということで、対前年から44万人増、24パーセント増と増えてきてございます。また、今年の1月から6月を見ますと、昨年から更に8パーセントの増ということで、現在、順調に伸びてきているところでございますので、

今後、誘客コンテンツ、情報発信の充実や、旅行商品の造成促進、こうしたこともしっかりと行いまして、大鳴門橋開通30周年を生かした取組を進めていきたいと思っております。

#### 川端副委員長

今の答弁を聞いておりましたら、通行料金が割高になっているとか、景気がもう一つよくないとかいうような経済的な要因を挙げておられますけれども、やっぱり観光というのは魅力があれば、多少金は高くてもやってくるんですね。それが、淡路島まできてるのに、そこからUターンして帰るといのは、やはり鳴門、徳島のほうに何らかの問題がある、観光的な魅力がもう一つ少ないのかなと思っております。

これをやればいいという単純なものではありませんが、私の住んでおります大鳴門橋のある大毛島の住民は、このことをよく、淡路島は有名タレントを使っているいろんな観光地をテレビに載せているじゃないかと、アピールが徳島県とは全然違うと、そういった話も出てくるんですね。ですから、魅力はいろいろあるんですから、情報発信をしっかりとやっていかないといけないと思っております。

そこで、大鳴門橋開通30周年という大きな節目を来年の春に迎えます。本会議でも知事にこの件について質問をしましたところ、兵庫県知事と一緒に鳴門の渦潮の世界遺産への取組とか、それから観光の魅力について、共に頑張っていきたいという発言がありました。この開通30周年に向けて、これからどのような計画があるのか教えていただきたいと思っております。

#### 三好広域行政課長

大鳴門橋開通30周年記念事業の取組について御質問を頂きました。

私の方から概括的に御説明を申し上げたいと思っております。今回の補正予算にも計上しておりますけれども、昭和60年6月8日に開通いたしました大鳴門橋につきましては、平成27年に30周年のメモリアル・イヤーを迎えることとなります。こうしたことから、委員から御指摘がございました共通料金化の効果を一過性のものに終わらせるのではなくて、年間を通じて、食や観光、文化など本県の魅力を生かした事業を実施していくということで、大鳴門橋の利用促進あるいは観光誘客、それから本県への交流事業の拡大に資すると。それから、兵庫県との連携・交流を深めるといったことで、この30周年の事業展開を図ってまいりたいと考えております。

今回、補正予算で計上しておりますのは、今年度の3月31日までにを行う事業でございます。スタートアップ事業の予算案として計上したところでございます。内容につきましては、今、各部から御説明申し上げましたとおり、合計で1,200万円の予算案として計上しております。

まず、大鳴門橋開通30周年スタートアップ事業につきましては、鳴門海峡の観光シーズンの幕開けを告げる来年3月の渦開きに合わせまして、オープニングイベントの開催あるいはPR事業の展開、それから3月21日から淡路島で開催されます淡路花博2015におきまして、徳島県のPRブースを設置いたしまして、本県の観光や物産に関するPRを行う事業でございます。

次に、観光サイドの事業でございますけれども、「おどる宝島！パスポート」淡路連携

事業は、淡路島を訪れた観光客の皆様に、更に徳島まできていただけるように、既に発行しているパスポートの対象施設に、淡路花博会場をはじめとした淡路島の主要観光施設に御参加いただくと、そうしたことで周遊観光の促進を図るといった取組でございます。

もう一点は、「食のおもてなし・徳島」PR事業ということで、とくしまマラソン開催前日に「新鮮なっ！とくしま」号を展開いたしまして、食によるおもてなしに合わせまして30周年記念事業のPRをおこなうものでございます。

最後に、関西圏域誘客促進事業ということで、関西圏のイベントに出展して、大鳴門橋開通30周年をしっかりとPRしていきたいという事業でございます。

こういったものについて、今回、補正予算で計上しているところでございます。30周年自体は来年の6月ということで、来年度行う事業についても検討を進めていかなければならないと考えております。先般、委員からも御指摘がございました10月23日に兵庫・徳島両県知事会議で30周年を記念した連携事業の実施についてやっていきたいと思いますということで合意をしたところでございます。どういったものを兵庫県と連携して行うかといったことでございますけれども、大鳴門橋が、徳島、兵庫両県の更なる交流の架け橋となるように、記念セレモニーとかシンポジウムの開催や、あるいは徳島、兵庫、両県のブランド食材、こういったものが販売拡大につながるような食の交流事業、それから特にジャズなどをはじめとした文化の交流事業など、両県の更なる交流促進を図るために、こういった記念事業を両県で連携して取り組んでいこうではないかといったこと、それから、阿波踊り等をテーマにいたしました交流事業の実施ということで、広域観光において淡路島と連携して事業を実施していこうといったことがおおむね合意されたところでございます。現在、来年度予算に向けて関係各部署、兵庫県あるいは地元の鳴門、淡路の自治体を含めまして協議を進めているところでございます。

こうしたことで、30周年が両県の未来につながるエポック・イヤーとなるように事業内容を検討してまいりたいと考えております。

#### 川端副委員長

様々な計画があることは分かりましたが、やはりインパクトをどう出せるかということかなと思います。恐らく近畿、関西の人から見れば明石海峡大橋の存在感は大きいですね、橋の大きさからしても。大鳴門橋について30周年の節目だというアピールがどれだけ大きいインパクトを持つのかというあたりは、一工夫も二工夫も要るんじゃないかと思います。

そこでもう一点、淡路島はコメディアンなどを使っていろんな所に物を食べに行ってもらったり、そういうところをテレビで取り上げるなど大々的に発信するのが上手なんです。ところが、徳島県はそういうふうな情報発信が十分できていないと思いますが、これからのメディア対策、これをどのように考えていますか。

#### 仁木観光政策課長

御指摘を頂きましたように、まずは徳島にしっかりと魅力のあるコンテンツを作る、徳島に旅に行ってみたくて思っていただけ、選んでいただけることが大事です。淡路へ行くだけじゃなくて、その次に徳島へも行こうということが大事でございます。そうしたことから、誘客のコンテンツとして、今お話のありましたような様々な周年のイベントで

ありますとか、パスポートの充実、このパスポートの充実については、淡路の花博はもとよりでありますけれども、淡路島の主な観光施設で使っていただいて、そして、徳島へもう一つ橋を渡ってきていただいて宿泊、観光をしていただけると、更にお得でありましたり、プレゼントに応募していただけるとか、とにかく徳島にこなければ完結しないといったような工夫をしていきたいと思えます。

そして、そういったコンテンツを作りましたら、次はそれをいかにお客様に伝えるのか、関西圏に伝えるのかということが重要でございます。そのためにはメディアの活用ということが非常に重要でございます。本県では、「おどる宝島！とくしま」キャンペーンの展開の告知といたしまして、今年3月に大阪の読売テレビでテレビCMを放映いたしましたり、また、現在も「おどる宝島！とくしま」のキャンペーンサイトでの発信でございますとか、また、旅行の好きな方に直接届く情報発信として、旅行雑誌や旅行サイトで徳島のページを設けて発信をするような形を取っております。

さらには、大阪－神戸を走ります高速バス、合計6台に徳島の魅力をしっかりと盛り込んだラッピングバスを仕立てまして、現在運行していただいております。そして、何回も何回も目に付く、また、ずっと目に付くといったような形での展開を図っているところでございます。

今後とも、こうした取組を更に充実強化させまして、来年の大鳴門橋開通30周年記念事業並びに徳島の魅力をしっかりと売り込めますように、テーマ性のある旅のプランなども積極的にアピールをしてまいりたいと考えております。

#### 川端副委員長

通り一遍と言ったら失礼なんですけれども、今の御答弁は、一生懸命やるぞという気持ちは分かるんですが、情報発信の仕方って、例えば関西圏域に行く場合と東京の方にアピールするのではやっぱりやり方が違うように、関西の人が、そうか、と見てくれるような、関西はお笑いの文化がありますよね、だから、関西の人の気持ちに入るような訴え方をしないと、これまでどおりのラッピングバスを走らせますとか、通り一遍のパンフレットでは、なかなか難しいんじゃないかと思うんです。ここから先は私もアイデアがあるわけではありませんけれども、民間の感覚も十分利用しながら、インパクトのある情報発信を、30周年となる来年の春に向けて是非考えていただきたいと思えます。

ちょっと話は違いますが、v s 東京、私はあれには大変期待をしている一人なんですけれども、批判されても、いいぞと賛同があっても、とにかく話題になればしめたものです。今のお答えを聞いておりましたら、少しインパクトに欠けるかなと思えます。何か、是非鳴門大橋を渡って向こうを見てみようと思うような情報発信の仕方を考えてもらいたいと思えます。

最後に、道路部局にもちょっとお尋ねしたいのですが、鳴門大橋の利用促進のための道路部局としての取組というのは何かありませんか。

#### 新居道路政策課長

ただいま、道路部局として大鳴門橋の利用促進に、どう取り組むのかという御質問を頂きました。道路の利用促進策といたしましては、ハード、ソフト両面で進めて行く必要が

あると考えております。

まず、ハード面についてでございます。道路はつながってこそ、その効果を最大限に発揮することができますので、まずは広域交通ネットワークの整備を図ることが重要と考えております。今年度は、念願の四国横断自動車道、鳴門－徳島間が完成し、大鳴門橋を含む神戸淡路鳴門自動車道と徳島自動車道が直結いたします。また、松茂にはパーキングエリアがございまして、スマートインターが併設されるということでございまして、徳島阿波おどり空港とも直結されるということで、道路利用者の利便性が飛躍的に向上するというところで、大鳴門橋の利用促進にも大きく寄与するものと期待しているところでございます。

さらに現在、広域交通ネットワークといたしましては、四国横断自動車道鳴門ジャンクションから阿南間の整備に加えまして、地域高規格道路であります桑野道路、福井道路の整備が、国やNE X C O西日本におきまして推進されております。県といたしましても、これらの整備を促進いたしまして、早期にミッシングリンクが解消されるよう取り組むことによりまして、大鳴門橋の利用促進にもつなげてまいりたいと考えております。

それから、ソフト面の利用促進策でございます。これにつきましては観光部局とも連携しながら、県外のサービスエリア、パーキングエリアにおきまして、徳島は近いんだということをアピールすることで、県外のマイカー客の取り込みを行うとともに、徳島自動車道でございますけれども、県西部の吉野川サービスエリアや一般道におきます道の駅などにおきまして、関係団体と連携を図りながら、高速道路の利用促進キャンペーン事業などを展開してまいりたいと考えております。

こういったハード、ソフト両面にわたる各種事業の展開によりまして、大鳴門橋をはじめ、広域交通ネットワークの利用促進に、今後とも、しっかり取り組んでまいりたいと考えております。

川端副委員長

横断自動車道と徳島自動車道がいよいよくつつくわけですね。この時期というのはいつになるんですか。

神野高規格道路課長

鳴門ジャンクションと徳島インター間の進捗状況についての御質問でございます。

現在、四国横断自動車道の鳴門ジャンクションから徳島インターチェンジ間、全線にわたり、橋梁や盛土工事はもちろんのこと、その総仕上げとも言うべき舗装でございますとか、施設工事も順調に進捗しておるところでございます。西日本高速道路株式会社が、今年度内の供用を目指しまして工事を進めているところでございます。なお、開通日につきましては、まだ示されてはおりませんが、県といたしましても、一日も早い供用が図られますよう、事業主体である西日本高速道路株式会社と今後とも連携してまいりたいと考えております。

川端副委員長

開通の日というのは、まだ発表されておりましたが、予定はいつになっていますか。

神野高規格道路課長

先ほど申しましたように、予定といたしましては今年度内ということでございます。

川端副委員長

今年度内、着実に進めていただきたいと思います。

あと一点だけ、鳴門商工会議所の方からの要望を聞いてまいりましたので、それをお伝えしたいと思います。鳴門市の板東地区は一番札所もありますし、ドイツ館もある、大谷焼もある、観光の資源が非常に豊富な所です。せっかく鳴門にきたのに、案内などの情報が不足しているために、板東地区へスムーズに行けないという苦情があるようです。ですから、いわゆる道しるべというんですかね、観光案内といいますか、そういったものの設置を是非しっかりやってほしい。鳴門北インターチェンジで自動車道を下りても、そこに、一番札所へ行くにはこちらということがはっきり分かるようにしてほしい。こういった要望を聞いておりますが、このことについて、県はどのようにこれから取り組んでいくのか、お聞きしたいと思います。

新居道路政策課長

道路標識の整備について御質問を頂いております。

道路標識は、道路交通の安全と円滑化を図る上で不可欠なものでございまして、道路利用者に対しまして、案内、警戒、規制などの情報を伝達する重要な施設でございます。

これまで本県におきましては、目的地付近までの経路を案内する経路案内標識、それから、交通上の主要な目標となる交差点、橋、トンネル等を案内する地点案内標示などの設置に努めてきたところでございます。四国の玄関口である鳴門市におきましても、これまでに本四高速の鳴門北インターチェンジを利用される観光客の方々に対しまして、インターチェンジから主要な観光施設への案内標識の整備を重点的に図ってきたところでございます。

さらに、昨年度からは外国人旅行者にも分かりやすい道路案内標識となるよう、まず手始めに鳴門市の大麻比古神社をはじめ、霊山寺、大谷焼などがあるドイツ館周辺、それから鳴門公園のエリアにつきまして、道路標識の英語表記の統一による改善の取組を、現在、鋭意進めているところでございます。

ただいま委員から、まだ案内標識が少なく、観光客に対し十分案内ができていないのではないかと御意見を頂きましたので、引き続き道路の案内標識の充実に努めるとともに、今、商工会議所という話がございましたが、いろんな観光部局とも連携いたしまして、案内情報が不足している箇所には重点的に整備を行いまして、本県を訪れる観光客にとりまして、分かりやすい案内標識となるよう努めてまいりたいと考えております。

川端副委員長

鳴門北インターチェンジで下りる方は多いんですね、これは渦潮がありますからね、渦潮を一回見てみたいと。鳴門北インターチェンジで下りた方が、一番札所というのはこの近くかと、こっちに行ったらいいんだと分かるようなものを設置してほしい。霊山寺は一

番札所ですからね、何と言いましても大変有名ですから。どこに設置するかというのが非常に大事ですね。まず、やってきた方が最初に目に付くような所に、ぱっと分かるように、そんな感覚で取り組んでいただきたいと思います。

#### 中山委員長

とくしまマラソンは非常に人気で、今回も28分とか27分とかで定員が一杯になった、本当に人気大会になって、いよいよ次回、二万人を目指さなければあかんのかなというふうに思って、非常に期待を持って見ておりますが、私も今回のマラソンはエントリーできなかったんですけども、毎回、東京とか大阪、神戸、京都と、マラソンのエントリーをしても、なかなか当たらないんですね。それだけ人気がある大会だからそれはいいことなんだろうが、とくしまマラソンも人気で、なかなかエントリーできない大会の一つになってきているのかなと、これは喜ばしいことではありますが、今回は一万人で、九千人がネット枠でしたよね、それであと千人が郵便振替枠ということで、市民ランナーの方は、よく皆さんも道路を走っていて御覧になると思うんですが、年配の方が結構多いんですね。城山なんかを僕らが走っていてもどんどん追い越されるぐらい非常に早い年配のランナーも多い。でも、悲しいかなネットに詳しくない。28分だったらなかなか高齢者の方というのは難しいんじゃないかなと。今回ちょっと調べていただきたいと思いますけれども、年齢層はやっぱり若い子が多いんじゃないかなというふうに思うんですが、高齢者の方が、申し込めなかったから仕方がなく郵便振替のほうに回ってエントリーしているという話も聞いております。その辺のところを今後、何か考えておられますか。高齢者対策というか、例えば65歳以上の優先枠とか、そういうふうなことも考えられたらどうかなと思うんですが、いかがでしょうか。

#### 新居にぎわいづくり課長

とくしまマラソンのことでアドバイスを頂いたと思っております。

おっしゃるとおり、マラソンの主力はやはり三十、四十、五十代の方が多いですが、高齢者の方も多いという状況がございます。先ほど御指摘がございました千人の郵便振替枠、これも実は、ほかの大きな大会では本当にネットだけという大会が、東京マラソン、大阪マラソンとございます。ただ、徳島はネット環境に弱い方々に門戸を広げるために、郵便振替の枠というのを設けまして、これを維持してございまして、最近そういう姿勢が評価されて、四国の他のマラソン大会でもそういうものを取り入れるようになってまいりましたので、今後もこの郵便振替の枠というものは、マラソンの流れとしては違うということも御指摘を受けるんですが、これは続けていきたいと思っております。

また、それ以上に、ネットのほうで何とかということについては、ほかの大会の状況なども踏まえてこれから検討していきたいと思っております。あと、エントリーとは違いますが、いろんな年代の方に頑張っていただきたいという思いがございまして、昨年から年代別の一位の方、五十代、六十代、七十代以上で男女一位の方に賞を設けたりという門戸を広げておりますので、ここも今後、皆様の御意見を頂きながら充実していけたらということも考えておりますので、いろんな方に楽しんでいただけるマラソン大会としたいですし、また、それも踏まえた上で参加人数の拡大ということが我々の目標でございます

ので、御意見を頂きながら、幅広い方に御参加、お楽しみいただける大会としていきたいと思えます。

#### 中山委員長

やはり徳島ならではのとくしまマラソンということで、他県にない郵便振替制度というのでも採用していただいております。これが今後、二万人になるかどうかは、まだこれからだと思うんですが、もし二万人になるようでありましたら、郵便振替の枠もちょっと拡大していただくような対策をとっていただくとともに、先ほど新居課長がおっしゃったように、高齢者の方が今一位だけ表彰されていると聞いて、非常にいいことだと思うんですが、せめて三位ぐらいとか、高齢者の方に非常に励みになると聞いております。ある人なんかは、タイムがよかったのを見たら、三位だったとか、二位だったとかいう人が、何かあるのかなと思っても一位だけということではっかりしたということもあつたんで、その辺のところももうちょっとおもてなしの心、徳島ならではのとくしまマラソンですので、考えていただきたいなと思えます。

それと、農林水産部のほうで、前日にいろんなブランドの紹介をしていただけると聞いております。その中に、やはりv s 東京で、これだけ徳島の阿波藍とか徳島の魅力発信をされておりますので、その辺のブースも出展を考えていくべきじゃないかなと。仮に東京の人がv s 東京を見て徳島へきて、何なこれ、口だけでないかというふうなことを言われないうに、せつかく一万人の人が、県外から何人来るか分かりませんが、きていただける機会なので、それを有効に活用して徳島の魅力発信、一生懸命頑張っていたいただきたいなと要望して終わります。お願いします。

#### 檜本委員

来年実施される淡路花博というのは、かつて大阪の鶴見緑地で行われた花博、ああいうのをイメージしたらいいんですか。

#### 仁木観光政策課長

今回の花博でございますけれども、来年の3月21日から5月末まで2か月と10日間、淡路島で開催されます。淡路花博2015花みどりフェアという名前でございますが、これは以前行われた淡路花博の15周年記念事業という形で開催されるもので、目標来場者数は約三百万人を予定していると聞いてございます。

#### 檜本委員

そうしますと、大阪の花博よりはずっと規模が小さい。以前、淡路夢舞台で実施した、あの程度の規模のものですね。その会場でチラシを作ってPRをしていくということなんですが、それはそれでいいと思うんですけれども、淡路まで来て徳島に来る客が少ないというのは、ハードの面で、やっぱり徳島は負けていると思えます。絶対大鳴門橋を渡らせないんだと、淡路に全部留めるんだという兵庫県の戦略です、これは。以前からそういう兵庫県の考え方があります。イングランドの丘、淡路夢舞台、ハーブの温泉もあるね、温泉もたくさんあります。それから牧場をテーマとした公園もありますね、畜産を活用し

た。とにかくハードの面で、魅力が徳島は圧倒的に負けております。

そこで、何か考えないかと思うんですよね。財政力が違うからやっぱり徳島は兵庫県にかなわないのは分かるんです。何ぼ企業誘致をしても、淡路の橋の向こうで垂水で西神地域というんですか、あの地域でものすごい開発をして安くてインターチェンジにも近いし、新幹線も近いし、圧倒的な強さで兵庫県は徳島いじめをやってるんですが、そこで負けるわけにいかないのでね。少しでも徳島にお客さんにきていただかないかん。そのために、これはやっぱり県内の資本だけではちょっと難しいと思うんです。だからここで、これもある種の企業誘致なんですけど、公園に関してのテーマパーク、いわゆるディズニーランドやユニバーサルスタジオではないテーマパーク。これはどんなものをイメージするかと言ったら、イングリッシュガーデンだったり、ベジタブルガーデンであります。今、若い人たちから高齢者に至るまで、特に女性はものすごいガーデンプームです。例えば国土交通省で都市緑化フェアというのをやってますね。ああいうのに手を挙げてきてもらったらどうですか。あれはお金がある程度出るんでしょ、あんまり出ないらしいんですが。あれは2か月よりもう少し長いスパンでやってたと思います。岡山でもやってました。静岡でもやってました。僕は3か所か4か所行きましたけれども、ものすごい長期間で、大勢の来客があります。徳島も花は強いですよ、竹内園芸っていう立派な企業もありますしね。そういう土壤はありますよ。こういったものを使って、それから種屋さん、タキイとかそんなのも徳島の農家とたくさん関係がありますし、こういう人たちに投資してもらって、後援の企業としてきていただいて一役買っていただくということも一つの方法であると思うんです。是非そういう知恵も使って、兵庫県に負けずに、徳島にたくさんきていただけるような戦略を立ててみてはどうかと思うんですが、どうでしょうか。

#### 仁木観光政策課長

今回、観光振興基本計画、新たに来年度から4年間の計画を見直すに当たりまして、まずは誘客コンテンツをしっかりと整備しよう、徳島にきてもらえるためのきっかけづくりにしよう。そのために、四国八十八箇所霊場でありますとか、鳴門の渦潮、県南のすばらしい海でありましたり、また、様々な体験もできる、また、にし阿波観光圏、これは桃源郷ということで表現もされておりますし、そうしたようなものを生かすとか、さらには、イベントコンテンツというのが最近非常に人気でございます、一つには「マチ★アソビ」であったり、徳島のキラーコンテンツであります阿波踊りを夏だけではなくて、春、秋にもいろいろやっていこうとか、毎日の踊りとか、踊りの練習風景を観光資源として見てもらおうとか、そういったことをさらに商品化もして、着地型旅行商品としてまとめて発地側の旅行会社に売っていこうであるとか、また、個人旅行者の皆さんに直接アピールをしていこう、そうした取組をしていくことが非常に重要であると考えまして、重点的な戦略として位置付けをさせていただこうと思っておりますのでございます。今お話を頂きました都市緑化フェアでございますとか、そうしたある程度の期間があるイベントというのは、集客力の面で非常に有効でございます、旅行商品も作りやすいということをお聞きするところでございます。徳島の自然、文化、歴史、食、そうしたものを生かしながら、集客力のあるイベントをできるものであれば引っ張ってきて、徳島の観光誘客に複合的につなげていきたいと考えておりますので、様々な面から今後、いろいろ研究してみたいと

思います。

樫本委員

是非、都市緑化フェアを徳島へ連れてきていただきたい。徳島にはあらゆる資源がありますよ、水際公園もありますし、祖谷の桃源郷もありますし、全県的にフェアの拠点は何箇所か作って行って、県民全てでやっていくという事業にしたら大成功すると思う。是非、都市緑化フェアの実現に向けて頑張ってください。

中山委員長

以上で質疑を終わります。

これもちまして、広域交流対策特別委員会を閉会いたします。（11時30分）